

# 黒 姫 山

北信頸城

黒姫高原スキー場より

L: 岡坂、伊藤、橋本、作野、蔵田、白沢、田中、山崎、手塚、加藤、鈴木、岩(敦)

1993年1月24日(晴)

黒姫高原スキー場の最上部は標高1540Mで、ここのリフト降り場で登山届けを出す。係員の方はとても親切で、ルートのアドバイスや、「いざという時は、リフト降り場の建物が避難小屋になっているので使うように」と言ってくれる。今日は、先行パーティーがなくラッセルとなる。樹林帯の急登は細かくジグザグをきって大変だが、下りはもっと大変だろうと心配しながら登る。稜線に着いても密な樹林帯で展望がない。少し稜線を進んで景色の開けた所で休憩を取り、引返す事にする。稜線からの下降点まではシールのまま進むが、木々の間の細かい凹凸がいやらしい。稜線からの下りは、滑りだしてしまえば、軽い新雪で気持ち良く、樹間の狭さもさほど気にならない。ただ、見通しがきかないのですぐメンバーの姿が見えなくなってしまうのがちょっと心細い。待っていなければと思いながらも、つつい滑ってしまって、結局スキー場の上部で全員揃うまで待つことになった。ス

キー場上部からは、スキー場を滑るといふメンバーと別れて、スキー場の北側の沢筋を滑る事にする。しばらくは、リフトに沿って尾根を滑るが、かなり藪っぽく、雪尻状に雪のたまった部分を選んで何とかスキーを脱がずに進んでいく。ここら辺りでこんなに藪っぽいなら下の方はどんなかな、と心配になる頃沢筋に出て、ほっとする。ここは以前雪崩事故が起きたという事だが、いまは藪にひっかかる心配こそすれ、雪崩の心配はなさそうだ。雪質はさすがに重くなって、スキー操作にはかなりの努力が必要になってきたがまあ楽しく滑れた方だと思う。林道もよく滑り、ゲレンデまですぐだった。

タイム 黒姫スキー場上部(9:40)ー稜線引き返し点(11:40、12:25)ー稜線からの下降点(12:25、12:40)ースキー場上(13:00、13:30)ー林道(14:22、14:50)ー駐車場(15:00)

[手塚 記]

